

ROAD 10号(平成16年9月発行)

総合人間科学部、来年4月に開設

新2号館も3月に竣工予定

上智大学「新ホフマン計画」の大きな柱の一つである「ヒューマン・ディグニティ構想に基づく新学部・新研究科構想」が明らかになりました。わが教育学科は文学部に別れを告げ、新たな総合人間科学部の一員となります。同窓生にとっても興味深いこの構想について、高祖理事長に伺いました。

いよいよ「総合人間科学部」の誕生ですね。まず、その設置の目的をお聞かせください。

—— 上智大学が今後どのような人材を育てていくかを考えたとき、キーワードとして注目したのが「ヒューマン・ディグニティ(Human Dignity)」すなわち「人間の尊厳」です。この「人間の尊厳」が保たれる社会の実現のために貢献できる人材育成を目的に、「総合人間科学部」の新設が決まりました。

その新しい学部に教育学科が移ることは、学科としても新たな改革の大きな一歩ですね。

—— 教育という人間そのものの営みを研究対象とする教育学科が「総合人間科学部」に加わるのは当然ですよ。ともに「文学部」から分離する心理学科、社会学科、社会福祉学科とともに、今後は学際的な研究も一層進行していくはずですよ。

具体的に学生たちの学びには、どのような変化が生じますか。

—— まず学部生は全員「総合人間科学 入門」を履修することになります。この科目は、ヒューマン・サイエンス(人間科学の知)、ソーシャル・サイエンス(社会科学の知)、そしてヒューマン・ケア(実践・臨床の知)に関する基礎知識や方法論、さらに倫理の分野をも学ぶものです。学科連携という観点で、先生方は研究を進めています。

ただ「総合人間科学部」というネーミングからは、その性格が見えにくいと思うのですが…。思い切って「ヒューマン・ディグニティ」を学部名にすることは考えられませんでしたか。上智らしさのアピールからも…。

—— 昨今の大学改編の流れを受け、その名称も当然議論の大きな対象となりました。様々な意見があったのですが、「ヒューマン・ディグニティ」はやはり理念であるという考え方から「総合人間科学部」に落ち着きました。

最後に同窓生へメッセージをお願いします。

—— 問題はこれから作り上げていくその中身です。上智大学教育学科は何を目指していくのか、大学院の改革も含めて、同窓生の皆さんの積極的なご意見、ご提案に期待しています。

今日は貴重な時間を割いていただき、誠に有難うございました。

(2004年8月30日、SJハウスにて 聞き手・57年卒・栗原峰夫)